

# 教団新報

定 価 1 部 220 円 (本体 200 円 + 共 283 円)  
予約購読料 1 年分 共 3,962 円  
紙代のみ 3,080 円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話 03 (3202) 0546  
FAX 03 (3207) 3918  
URL <http://uccj.org>  
発行人 網 中 彰 子  
編集主筆 嶋 田 恵 悟  
印刷所 株式会社きかんし



下浜教会／2025 年元旦（奥羽教区）

## 春 新 メッセージ

### 神の御前で真実に

テモテへの手紙二 2 章 8 ～ 13 節



雲然俊美

#### 困難を耐え忍ぶ

次の言葉は真実です。／「私たちは、この方と共に死んだのなら／この方と共に生きようになる。耐え忍ぶなら／この方と共に支配するようになる。／私たちが否むなら／この方も私たちを否まれる。私たちが真実でなくても／この方は常に真実であられる。／この方にはご自身を／否むことはできないからである。」（テモテへの手紙二 2・11 ～ 13 / 聖書協会共同訳）

主の年 2025 年の歩みが始まりました。私たちは、日々、能登半島地震等の災害によって労苦を担っている方たちを覚えて祈っております。その生活の再建と地域の復興の道のりが険しいことを思い、その地に住む方たちと、その地に立てられ、主の年 2025 年の歩みを覚えて祈っております。また、長く続くウクライナやガザ地域等における戦闘の終結を心から願ひ、その嘆きや苦しみを覚えて、平和の実現を祈っております。さらに、私たちは、福

#### キリストは常に真実

テモテへの手紙二の 2 章 11 節から 13 節に記されている言葉は、教会の信仰告白の言葉か、あるいは、賛美歌であったのではないかと言われます。賛美歌であったとすれば、この手紙を書いた伝道者は、様々な困難に直面するたびに、何度もの賛美歌を口ずさんだことと思います。そして、様々な困難によって福音宣教の働きが阻まれた

#### 神の御前に真実な教会

私たちは、自分自身が真実な者でないことを知っています。真実でありたいと願いつつも、そうできないでいるのです。「私は自分の望む善の良心であらんとする」と「同巻頭言」よりです。日本基督教団においては、各地に立てられている教会の多くが、その地域における唯一の教会です。教団はそのような教会の伝道の灯火を消さな

#### とりなしの祈り

教会には多くの欠けや破れがあり、弱さを抱えています。しかし、教会はキリストの真実に支えられ、応えて歩み続けま

いたために、伝道のネットワークや宣教協力の働きを進めて行く務めが与えられています。昨年のクリスマスには、徐々にコロナ禍以前の教会活動を再開した教

会が多かったのではないかと思います。私が 33 年兼牧している下浜教会では、コロナ禍以前のよう

真実を示すことではありません。キリストの真実により頼み、キリストの真実に応えて歩むということです。教会も同じです。私

恵みを喜び祝うことができました。そして、その家庭礼拝において、その地域に住んでいる方たちを覚えて、共にとりなしの祈りをささげることができました。

このために十字架において死なれたお姿にはつきりと示されています。主は十字架の死において、「ご自分の者たちを愛して、最後まで愛し抜かれ」（ヨハネ 13・1）しました。私たちの信仰の歩み

は、このキリストの真実によって支えられています。私たちは、今日、様々な困難の中で、うめきつつ耐え忍ぶ日々を過ごしているキリスト者とキリスト教会に向けて語られている言葉です。

私たちは、今日、様々な困難の中で、うめきつつ耐え忍ぶ日々を過ごしているキリスト者とキリスト教会に向けて語られている言葉です。

は、このキリストの真実によって支えられています。私たちは、今日、様々な困難の中で、うめきつつ耐え忍ぶ日々を過ごしているキリスト者とキリスト教会に向けて語られている言葉です。



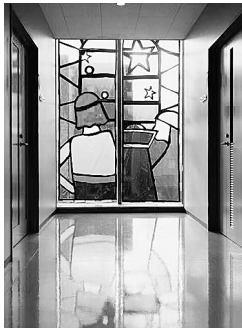
# 共に祝うクリスマス

北陸学院中学校・高等学校×石川地区共催「市民クリスマス」《石川県》

## 神の愛に満たされて行われている地域の伝道



上＝降誕劇、下＝手作りのステンドグラス



石川県金沢市で来年、創立140周年を迎える北陸学院中学校・高等学校と日本基督教団石川地区との共催で、毎年、地域住民のために開催されるクリスマスの集いがある。今年で41回目の市民クリスマスが12月19日午後6時30分より行われ、北陸学院クロリアチャペ

ルの会堂内には465名が集った。案内チラシには生徒の手書きで絵が描かれ、生徒たち手作りのステンドグラスが校舎の窓辺に飾られ、学内は淡い光で照らされる。静かなチャペルに、讃美歌「久しく待ちにし」のハンドベル演奏が響き渡り、開始された。生徒たちの無言の降誕劇に聖歌隊、ハンドベル、フルートやクラリネット、バイオリンなどの管弦楽アンサンブルの賛美が堂内いっばいに響き渡る。これをリードする

41年間、開催されてきた学内でも地域でも、伝統的なクリスマス行事。その中で、石川地区の教会は献金で支え、メッセージャーとして説教者を送り込んできた。今年は金沢元町教会の松原望牧師が「大いなる冒険がはじまる」と題して、御言葉を語った。

2024年、北陸学院は能登半島地震被災地の支援活動に特に力を入れた。ハートフルな活動をしよう、とプロジェクトを立ち上げ最先端を歩む。

市民クリスマスも、神の愛に満たされて地域の伝道と教育が行われている証であり、感謝である。(内城 恵報)

山梨県教会一致懇談会「山梨県民クリスマスの集い」《山梨県》

## 讃美とオルガンの音色を通して

山梨県では山梨県教会一致懇談会という教会一致のために祈る超教派の交わりが1968年に設立され、現在に至るまで活動がなされてきた。各教派からの教職・信徒により世話人会が組織され、運営されている。

その働きの一環として毎年「山梨県民クリスマスの集い」が開催される。今年は12月14日、山梨英和中学・高等学校グリーンバンクチャペルにて、大平健介氏（聖ヶ丘教会）

を招き、クリスマス・オルガンコンサートを実施した。当日まで何人来場するかわからなかったが、205名ほどの人々が駆け付け、第1部の一致懇談会聖歌隊による讃美、第2部大平氏のオルガン演奏に聞き入った。

大平氏は「オルガンを通して教会を元気にしたい。音楽による伝道の可能性は非常に大きく、この道を拓きたい」との熱い志のもと活動されている。

その演奏は技術が圧倒的に優れているというばかりでなく、霊的な深みがあり、聴いた会衆の感動は大変大きなものだった。オルガン曲の中に福音のメッセージが込められており、それがこんなに魂を揺さぶるものであること、教会と関わりがない人にも響くものであることを実感した。

オルガンとオルガニストの歴史とあり方について演奏の合間に語られた。オルガンにはそれぞれ、土地に根差した「土着性」と言える個性があり、オルガニストは旅をしながらオルガンと出会って、その持ち合わせている個性と力を引き出す、という。主イエスがタラントを僕たちにあずけ、それで商売をさせたが、タラントの可能性を引き出した者と、土に埋めた者のたとえ話（マタイ25章14節以下）を思い起した。私たちは身近に与えられている教会音楽やオルガンという宝のポテ



第2部のコンサート

ンシャルをどこまで伝道のため生かしているだろうか。讃美とオルガンの音色を通して待降節にふさわしい黙想へと導かれた。(齋藤真行報)

京都キリスト教協議会「平和を祈る クリスマスキャロルナイト」《京都府》

## 教会や団体の枠を超えて

夜、日本聖公会聖アグネス教会および平安女学院中学校高等学校アグネスホールを会場として、クリスマスキャロルナイト2024が開催されました。本イベントは、クリスマスキャロルナイト2024実行委員会が主催し、事務局を京都YMCAが務め、KCCの後援により実施されました。

京都YMCAと京都YWCAの会員・スタッフ、日本基督教団の牧師・教員、そしてキリスト教主義学校の生徒たちで構成された実行委員会が「地域の人々が幅広く参加し、教会や団体の枠を超えてクリスマスをお祝いする」という趣旨のもと企画を進めました。そして、地域全体に向けて広く案内しました。

当日に体調不良などによる多くのキャンセルがあったことは残念でしたが、京都YMCA、京都YWCA、京都市内の教会関係者、そして一般の参加者103名が来場しました。イベントは平安女学院中学校高等学校コーラス部およびハンドベル部による演奏で幕を開け、その後、礼拝が行われました。説教は在日大韓基督教会京都南部教会の新井由貴牧師が担当しました。礼拝後には、京都大学交響楽団（京オケ）による弦楽四重奏が披露されました。

聖歌隊は、日本基督教団の教員、YWCAの会員やコーラスグループ、YMCAのスイミング・体操クラス参加者とその保護者や日本語科の卒業生などで構成され、当日まで練習を重ねました。伴奏は日本基督教団教会のオルガニストが担当しました。

参加者からは、次のような感想が寄せられました。「初めて教会に入りました。歴史ある教会で、重厚なパイオルガンの荘厳な伴奏に合わせ『こぞりて』が高らかに響き渡り、薄暗い教会内に響くその力強い音色に深く感動しました」、「貴重なパイオルガンの音色や牧師さんの分かりやすいクリスマスのお話を聞くことができました。聖歌隊の美しいコーラスもあり、厳かな雰囲気の中、礼拝となり、クリスマスチャンではなしに私にも心に沁みるひと時となりました」。次回以降も、多くの皆様とともにクリスマスの喜びを分かち合える機会を続けていきたいと願っています。

(藤尾 実／京都YMCA 主事、柳井 一朗／京都キリスト教協議会書記報)



日本聖公会聖アグネス教会で



社会委員会  
援助団体

## 社会福祉施設からの声

みんなのトイトイ子ども食堂《千葉県》

### ゆったり無理せず、息ながく



トイトイ遊びの光景



日頃のご支援ありがとうございます。千葉県市原市辰巳台の京葉中部教会の礼拝堂やキッチンを使って「みんなのトイトイ食堂」の活動を始めて早8年になります。ほんの少しでも孤食になる子の息抜きの場になればと始めた輪が広がって、現在は、

毎月第1土曜日と第3土曜日に教会のキッチンで調理し、多目的室、椅子をどけた礼拝堂で、賑やかに遊びや会食を楽しんでいます。会食は大体毎回80食。また担当の方が準備してくださる遊びのグッズは次々工夫され、その道具で遊ぶ子どもたちの反応とエネルギーは私たちにとても大きな喜びです。

また予約制ですが月1回のフードパントリーでお米（5キロ）や野菜などを提供する活動も続けています。現在は約50世帯の方が申し込んでいます。活動に共感した方が

食材やご寄付を頂くこともあり感謝しつつ、使わせていただいています。私たちは小さな団体ですが、調理、配膳、遊び、パントリーとそれぞれの担当者が責任をもって手早く対応してくださるのも感謝です。様々な困難をかかえた毎日の暮らしがしんどい方にとって、また一人ぼっちで日々過ごしている方にとって、そこに行けば笑顔があり、対話があり、子どもの歓声があるという「場」があることの大切さを痛感します。すっかりなじんだ子どもたちが、手続きするお母さんの手を振り切っ

てさっさと遊びのコーナーに行く姿を見ると「やった!」と、つい二

ンマリします。最近、大学生や支援学校の生徒さんのボランティアも加わり、子どもたちは年齢の近いお兄さんやお姉さんが遊んでくれるので大喜び（うーん、若さには叶わないな、とおばさんのひとり言）。12月はクリスマスということでケーキを奮発!メニューもちょっと豪華!試行錯誤は続きますが、ゆったり無理せず今後も継続すること、「支援」ではなく「共に」過ごす時間を大事にすることを目標として、スタッフ一同これからも頑張ります。

（山本友子報／みんなのトイトイ食堂代表・京葉中部教会員）

香櫨園教会のついで場「地域サロンオアシス」《兵庫県》

### 神の代理人としての奉仕



12月、クリスマスツリー作り

香櫨園教会は2022年10月から地域に会堂を開放して「地域サロンオアシス」と名付けたついで場の活動を行っています。この活動は、この地域に、行き場のない子ども、高齢者、障がいを持つ孤独な人が多いことから、「さみしい思いや辛い思いをしている方の居場所を教会の中に作る」「人と人をつなげ、一人ではないと実感できる場所を目指そう」との

教会員の願いと祈りによって始まりました。そして、毎月第4土曜日の午後の2時間、参加費100円、30〜40名の規模で開催されています。2時間の活動の内容は、毎月趣向を凝らしたメニューを提供して、それに参加してもらう「チャレンジコーナー」が中心です。これまでに、「スマホ教室」、「ボッチャ」、「ノルディック・ウォーキング」など数々の企画をして楽しんでいただきました。その他にも、同じテーブルに座った者同士で交流する「お茶会」や、その季節の歌を歌い、手話も楽しむ「みんなで歌おう」などの

コーナーもあります。これまでの参加者の中には、「身近な人を亡くした」、「病気を闘っている」など一人暮らしの孤独な方々が多くいました。それでも初めて知り合った参加者の間では、自分の生き方、趣味、その他さまざまなことについて、心を開いて話し合う中で、すぐに打ち解けて人間関係が作られていくようでした。

教会員のさまざまな賜物によって開始されたついで場でした。しかし、今では一般参加者、地域の大学生、社会福祉協議会のスタッフなど、さまざまな方々の賜物が生かされる素敵なたついで場に

成長しました。これからも、私たちはこの活動を通して「地域に関心を向けて、共に生きる人々に愛を示す」キリスト者の役割を果たしていこうと思っています。また、賜物を生かして、神の代理人としての奉仕を重ねていきたいと願います。その理由は、各地域に建つ教会は、神の愛の対象であり、神の代理人だからです。さらに、地域の多くの方々の賜物が用いられることによって、この地域に「愛し合う世界」が現れていくことを祈ります。

（宮本幸男報／「地域サロンオアシス」代表・香櫨園教会牧師）

宇部山陽小野田キリスト教連合アドヴェントの集い《山口県》

### キリストの名のもとに悔い改めてきた60年

待降節第一主日の午後、宇部緑橋教会を会場に宇部山陽小野田キリスト教連合の「アドヴェントの集い」が開催された。第一部礼拝50分、休憩10分を挟んで第二部茶話会30分の短時間の集いは毎年恒例となつてい

る。構成は7教派11教会である。今年はアッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団宇部神召キリスト教会の牧師が「闇の中で輝く光」と題して説教を担当し約60名が集った。公

共施設を会場に政教分離違反かもしれない市民ク

リスマスを催していたが、時代は降り目的の意

宇部緑橋教会を会場に



違反かもしれない市民ク

る。確かに時間は掛かるが、感情が露わになり上手く行かない時もある。しかし「他人の召し使いを裁く」（ローマ14・2）ことを悔い、「忍耐強く善を行」（同2・7）うことへと改めてきた。そうした歩みの中で改めて覚えさせられることは、キリストの名があることにより深い意味である。それは宗教としてのキリスト教ではないし、ましてや特定の言葉の押しつけなどではなく、いわば普遍的な意味である。そうしてそれは、行

政交渉においても、教団においても、わたしにキリストの名を見出すことを助けてくれている。まさに「闇の中で輝く光」と言える（小畑太作報）

## 事務局報

藤田房二（隠退教師）



24年11月22日逝去、92歳。栃木県生まれ。57年農村伝道神学校卒業、同年より越生、島村、串木

大島 力（無任所教師）



24年12月9日逝去、71歳。東京都生まれ。81年東京神学大学大学院修了、同年より阿佐ヶ谷、石神井教会を牧会し、22

加藤久雄（隠退教師）



24年12月22日逝去、99歳。愛知県生まれ。56年東京神学大学大学院修了、同年より熱田教会、田原吉胡伝道所を牧会

正教師登録

村上有子

（2024・11・25受按）

加藤 隆、菅根謙治

（2024・12・2受按）

補教師登録

蓮沼 明

（2024・12・15受允）

教師異動

富山二番町

就（代）渡部信子



## 伝 道 報 告

伝道の  
ともしび

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」  
ルカによる福音書第10章17節～20節

伝道推進室より応援した教会・伝道所

## 不思議な形で働く神様

黒石教会牧師 伊丹 秀子



上＝教会堂  
下＝ムジカ・エクレシア

黒石の町に最初に福音を伝えてくれたのは東奥義塾の学生たちでした。時は1878年。津軽藩の藩校だった東奥義塾で「新しい教え・キリストの福音」を聞いて信じた若き学生たちが驚きと共に黒石の町での伝道を開始したのでした。

しかし52年の間、黒石の町には「教会」が与えられませんでした。義塾の学生と共に弘前教会の牧師たちが熱心に伝道をしてくださり、町の歴史にさえ

初めの小さな教会を建ててくださった。

戦争中、大工町会堂では日曜夜に外に灯りがもれないように黒布で窓を覆って礼拝が守られ続けました。この時、黒石教会の礼拝を助け導いてくださったのが聖愛中学高等学校の聖書教師・高島清子先生。

戦後、世の中にキリスト教ブームが起こった時、黒石教会でも「牧師招聘」の祈りが始まりました。経済的な問題からそれは困難な課題でしたが、それでも太田実先生や金井輝夫先生が黒石教会に定住してくださった短い期間、教会は地域の若い方々で賑わいました。

月半ばかり突然、海外から黒石に働きに来ている方々が礼拝に集ってくださるようになり、本当に励まされています。主が常に共にいてくださることを感謝です。

## 新島襄上州安中帰郷150周年記念祈禱会

建学の精神の継承と  
発展を祈る

師、新島学園高校3年鈴木旭さん、新島学園短期大学2年鈴木琴雅さんが祈りを捧げ、この地に福音の種を蒔き、私学教育の礎を築いた新島襄の働きに感謝し、新島学園の建学の精神の継承と発展を祈った。

会場となった旧宅は新島襄の家族が安中藩江戸屋敷から引き上げ居住した住居であり、現在は移築され安中市の指定史跡となっている。アメリカから帰国した新島襄はこの旧宅において、10年ぶりに家族との再会を果たしている。

1864年、江戸末期に激動する日本の将来を憂いた新島襄はアメリカへ脱出して学びの機会を得、会衆派教会で受洗、アメリカン・ボードの宣教師としてキリスト教主義による大学の設立を胸に帰国する。安中での講話には多くの人々が詰めかけ、これを契機に集会が始まる。1878年には地元の篤志家湯浅治郎氏の運営する私設図書館「便覧舎」において新島襄より30名が受洗、安中教会が設立された。新島襄は帰国後1年で同志社英学校（後の同志社大学）を京都に設立するが、安中においては新島から直接洗礼を受けた人々によって第二次世界大戦後に新島学園が設立され、今日に至るまでその意思が継承されている。

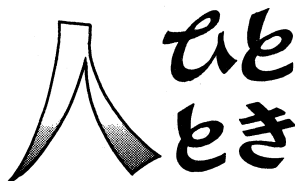
あれから30年。当時私は大阪・北摂地区にある茨木教会の担任教師2年目。最初の子が生まれてまだ2ヶ月。あの日、突然の強震に見舞われた。夜明け前でもあり、瞬間何が起ったのか分からなかった。タンスが倒れるかと思っ、片手でタンスを押さえながら、もう片方の手を、隣に寝ていた長女の脇について、揺れが収まるのを待った。階下では、玄関に置いてあった金属バットが大暴れして、もの凄いい音を立てていた。大阪で大地震に遭うなど、

全く想定外だったので混乱したが、何が起ったのか理解するのに時間はかからなかった。震災を巡る当時の教団の混乱に、若かった私は正直、絶望しかけた。

それから16年。東日本大震災の時、教団の総務幹事。震災初期に仙台に入ってから、岩手から千葉までほとんどの被災地を訪ねたが、阪神・淡路大震災

と全く違ったのは、被災地の途轍もない広さと、初めて経験するレベルの原発事故。最終的な処理のゴールも見えない。そして能登半島地震から1年。心身と生活の傷の癒えないまま、未だ復興の道筋さえ見えてこない。

多くの人が途方に暮れる思いで、何とか日常生活を建て上げていく。そこに、途方に暮れても失望させない神の憐れみが現れることを信じる。  
(教団総会副議長 藤盛勇紀)

はが  
芳賀よし子さん

## 聖霊にとらえられて



石巻山城町教会員

クリスチャンの友人の誘いで、初めて石巻山城町教会の礼拝に出席したのは13歳の頃。その後上京し、お姉さんの誘いで銀座教会の礼拝や祈禱会、讃美歌練習会に出席するようになった。しばらくして、三井勇牧師より受洗を勧められた。神さまのことも信仰もよく分からなかったが、

された。24年間の結婚生活のうち23年間は闘病生活だった。夫の介護、子育て、仕事に明け暮れる毎日だったが、不思議と今はそのすべては神さまのご計画であり、神さまのなさることに無駄はないと思える。

を失いかけていた。しかし、聖霊が芳賀さんの心と耳を開いてくれた。不安の中で言葉が次々とささやいた。「主は与え、主は取り去る」、「わたしはあなたを見捨てない」。聖霊の働きを確認できたとき、雲が晴れたように思い煩いから解放された。いかなるときも主は聖霊を通して働いてくださり、共におられる。91歳となった今も、この信仰の確信に生きています。芳賀さんは、「今私には何も悩みがないのよ。信仰が与えられているって本当に素晴らしいね」と語ってくれる。この先も主に委ねて生きていく。

東日本大震災の時には、自宅の1階が浸水し、食料も水もない中4日間一人で救助を待ち続けた。その間、眠れない夜を過ごしながら、神が創造し、支配されるこの世界に起こる苦難に対して「神さまあなたの御心はどこにあるのですか」と問うばかりであった。この時イエスの憐れみ